

能楽 演目及び出演者

翁 翁 観世清河寿
三番叟 野村萬斎
千歳 観世喜正
面箱 内藤 連

[解説]

神事である「翁」は「式三番」というのが正式な名称で、“能にして能にあらず”と言われるとおり、能でも狂言でもなく、すべての点で古風な様式を持っている儀式性の強い演目である。天下泰平を祈る翁に対し、三番叟は五穀豊穰を寿ぐ。

半能 高砂 住吉明神 観世清河寿
阿蘇宮神主友成 森 常好
従者 森 常太郎
笛 藤田六郎兵衛
小鼓頭取 大倉源次郎 脇鼓 鵜澤洋太郎 清水和音
大鼓 亀井広忠
太鼓 大川典良
後見 観世恭秀 上田公威
地謡 大江又三郎 岡 久広 永島忠修 武田尚浩
浅見慈一 角幸二郎 泉雅一郎 坂口貴信
働き 上田彰敏 関根祥丸
狂言後見 深田博治 高野和憲

[解説]

九州阿蘇の宮の神主が京に上る途中、播磨の高砂の浦に立ち寄ると、松の周りを掃き清める老夫婦に出会う。神主が相生の松はどれかと尋ねると、今掃き清めた松がそれだと答え、この高砂の松と離れた住吉の松がなぜ相生の松と言われるのかを語り、自分たちこそその松の精だと言い残して、小舟で沖へ出てしまう。(中入り) 神主が浦人の舟で住吉に渡ると、住吉明神が現れ、舞を舞い天下泰平を祝福する。

祝言之式では、中入り後、後シテが舞う舞の部分の上演になる。

福の神 福の神 野村萬斎
参詣人 深田博治
参詣人 高野和憲
地謡 岡 聡史 中村修一、内藤 連 飯田 豪
後見 月崎晴夫

[解説]

二人の男が毎年、大晦日恒例にしている福の神詣でへと出かける。神前に参拝し、年越しの豆をまいているところへ、明るい笑い声をあげて福の神が現れる。福の神は、熱心に参詣する男たちを幸せにしてやろうと思い現れたと言い…。

豆まきは元々大晦日の追儺という行事に由来したもので、現在行なう節分の日も旧暦の大晦日にあたります。狂言に登場する神は、夷や大黒など庶民に親しみやすいものが多く、福の神の笑いは、それだけで観る者の心を和ませ、福を振りまく。

アイヌ古式舞踊 演目及び出演団体

出演団体：帯広カムイトウウポポ保存会

演 目

	演目	解説
1	シントコサンケ	酒造りの最中に歌われる歌で「酒絞り歌」と「酒漉し歌」がある。「酒絞り歌」は、発酵して飲めるようになった御神酒を、柄杓とザルで漉し、別のシントコに入れる際、周りの女性達によって「穀物の酒 座にある酒 しっかり絞れよ」と歌われる。
2	ウタリオブンバレ	「ウタリオブンバレ」は宴もたけなわになると誰からとなく立ち上がり輪になって踊りだした踊りと歌。こうした輪踊りは近隣のコタンの人など大勢集まった時に踊ることが多く、他のコタンの人の歌に合わせてその場で創作するなど即興的な踊りが多い。
3	フミウス	杵搗き踊りは、各地方のアイヌに伝えられている。十勝地方の「フミウス」は、その昔アイヌが和人の所に行き、足踏み式で杵を搗く「踏み臼」を使って穀物を脱穀している様子を見て作られた踊り歌。
4	サランペ	「サランペ」は、布、または絹という意味。言い伝えによると、その昔、和人から新しい布地を貰い、その喜びを表現した踊りと言われている。
5	サルキウシナイ	アイヌには自然の風景や、四季の情景をモチーフにした踊りがあり「サルキウシナイ」とは、「ヨシが群生する沢」という意味で、コタン近くにヨシがたくさん生えている所があり、そのヨシが風で大きく揺れる様子を表現した踊りと言われている。
6	ク リムセ	男の踊りのための歌。言い伝えによれば、狩りに出掛けた男が空を見ると親子の鳥が仲良くぐるぐると踊るように飛び回っている。男は自由に飛び回る鳥の姿、美しさに感動し、矢を鳥に向けて放つことを思いとどまったという話を歌や踊りで表現している。
7	ムックル	「ムックル」は、アイヌの人達の楽器で、竹で作られた物。女性達が口にできない思いを込めて、恋人に向けて奏でたものだといわれている。それが相手の胸に言葉となって伝えられると信じられている。
8	サロルンリムセ	「サロルンリムセ」鶴の舞。親鶴が幼い子鶴をいたわり育て、子鶴がついには大空高く飛べるように成長するまでの過程を描いた歌と踊り。
9	イフンケ	「イフンケ」とは、子守唄の意味。
10	ヘレカンホ	伝承者の話によると「水鳥が沼や池で泳いでいる様子を歌と踊りにしたもの」であり、その昔、白鳥とも思える大きな水鳥が水辺で遊び戯れる様子を歌にしたものと伝えられている。
11	エリリムセ	豊年祈願の歌と踊り。種を撒く溝にアワを撒く作業の様子を歌と踊りにしたもの。
12	エムシリムセ	「エムシリムセ」剣の舞。アイヌの人達は、豊かな自然界の至るところに神々が姿を変えて住んでいると信じている。中には悪さをする神もいる。そこで、悪い神がコタンに災いをもたらさぬように威嚇を目的に剣を激しくぶつけ合って勇壮に踊る。
13	バッタキウポポ	昭和12年から昭和13年頃に、十勝地方でバッタが大発生した事を、後世に残しておこうと作られた踊りで、十勝地方特有の踊り。
14	ポロリムセ	「ポロリムセ」とは、大きな輪踊りという意味。「ポロリムセ」の歌詞には時として、言葉の意味がない掛け声もある。これは踊り歌には神と人間が一体となって喜びを分かち合い、神に呼びかけるという意味が込められている。